



真剣なまなごしでブドウを調整

愛知県農業総合試験場が開発した新品種の栽培法の検討など様々です。

**(四) 果樹専攻**

栽培面積は二・五畝あり、ブドウ、ナシ、カキを始めとして県内果樹産地にある樹種はほとんど実習教材として栽培しています。栽培樹種が多彩なため、開花時期の四月から収穫前の七月までは摘果や袋掛けなど管理作業の多忙な時期でした。

その中で二年生は一年生に作業の手ほどきをしながら卒業論文作成のためのプロジェクト活動に取り組んでいます。昨年度、「イチジクの接ぎ木による品種更新」をテーマにした学生の卒業論文が、東海近畿ブロッックで最優秀賞を受賞しました。

果樹専攻の学生のうち、専業農家の子弟は三名と少ないですが、ほとんどの学生はチャンスがあれば農業を実際に営みたいと強く願っている者が多くおり

プロジェクト学習は、一人当たり三から五町の面積を担当して二年間で二回、栽培計画から収穫まで行うとともに、収益計算を行っています。

本年度のプロジェクト課題の一つとして、抑制スリートコーンの栽培を行いました。八月上、中旬に播種を行いました。昨年は糖度が二十度を上回るものが収穫できたので、今年は糖度三十度



二年生の面々

ます。果樹部門で就農(雇用就農)する機会がまだまだ少ないのが現状ですが、やる気旺盛な学生の就農の後押しをいただければ果樹農家の方がみえましたら是非ご連絡ください。

**(五) 露地野菜専攻**

農業大学の専攻の中で最も人数が多いのが露地野菜です。栽培品目は県内で生産されている主要品目を年間二十六品目栽培しています。その他にイチゴの高設栽培を行い、十二月から翌年六月まで収穫しています。

**(七) 養豚・養鶏専攻**

少人数で濃密な学習環境の中で楽しく、真剣に取り組んでい



トマトの誘引作業

を目指します。

**(八) 施設野菜専攻**

七月には一旦栽培を終え、二年生は水耕プラントの清掃・消毒といった作業を行い、九月からの派遣実習へと気持ちを切り替えていきます。一方、一年生は土壌消毒や有機物の投入による土作りと栽培ほ場の準備に入りました。そして七月からプロジェクト学習に取組むための播種を始め、九月には自分で播いた種から育った野菜の管理、調査研究と移っていきます。プロジェクト学習のテーマは、野菜の「味」にこだわり、おいしい品種の選択や水分制御による味の向上また、燃油価格が高騰を続けていることから、より効率のよい暖房方法等をプロジェクト研究として取り上げる予定です。

**(八) 酪農専攻**

ホルスタイン種を主体とした

ます。一年生は、秋までに豚と鶏の両方の飼育管理手法を学びます。その後、プロジェクト学習を始め、養豚コースか養鶏コースを選択し、一方の畜種を専門的に学び、研究成果を卒業論文としてまとめ上げます。

県内養豚農家は消費地に近いことを活かし、味や品質で消費者にアピールできる銘柄豚の生産に熱心です。このため、養豚コースでは愛知県で系統造成されたランドレース種「アイリスL三」など三種類の豚を用いた三元交配豚を飼育し、安全でおいしい豚肉を生産しています。

養鶏コースは「卵用名古屋コーチン」を主体にボリスブラウン、烏骨鶏など五種類の採卵鶏種を飼養しています。鶏種や飼養方法の違いによる卵の品質や経営への影響を学習しています。



平飼卵用名古屋コーチンの飼養



やっと生まれた子牛を世話する学生

搾乳牛二十頭を始め計六十五頭前後を飼養しています。さらに自給飼料も栽培しています。

最近では酪農後継者として本校に入学する学生は少なく、多くは本校で初めて牛を扱います。四月には恐る恐る牛を眺めている学生も、二年生の助言指導と先生が見守る中、毎日繰り返し行う作業実習で四か月も過ぎると牛の扱いに慣れ、毎日の管理作業も責任をもってできるようになりました。五月頃から、学生に担当する牛を割り当て、世話をしていきます。一年生の九月からプロジェクト学習のテーマの設定、計画樹立を始めており、二年生はその結果をまとめていきます。

牛は産業動物です。病気や乳牛としての廃用など別れの時もあり、手塩にかけた牛の最後にも立ち会う辛さを味わうことも一人前の酪農家になるために必要なことです。